

一般研究集会（課題番号：29K-01）

集会名：平成29年度 自然災害に関するオープンフォーラム

「後世に遺す～未来を守る防災教育～」

主催者名：日本自然災害学会，第36回日本自然災害学会学術講演会・オープンフォーラム実行委員会
(公社) 中越防災安全推進機構

研究代表者：上村 靖司

所属機関名：長岡技術科学大学 機械創造工学専攻

所内担当者名：寶 馨

開催日：平成29年9月29日

開催場所：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

参加者数：64名(所外56名，所内8名)

- ・大学院生の参加状況：5名(修士4名，博士1名)(内数)
- ・大学院生の参加形態 [聴講 及び 運営補助]

研究及び教育への波及効果について

本集会には，平日の午前中の開催にもかかわらず会場を埋める60余名の参加があった。なかには，新潟県内で防災教育の現場に立つ方々もあり，地元だけではなく東北や関西において様々な形で災害や災害に影響を受けた芸術，暮らし等を伝えるパネリストの声から刺激を受けていた。

また，同じくご登壇頂いた北原糸子先生が，適宜過去の歴史災害との対比を意識したコメントを入れてくださったことにより，各地でばらばらに行われている取り組みの共通項の理解が容易になった。

研究集会報告

(1)目的

防災教育は，単純な災害対応技術の伝達から，生きる力の涵養や，地域社会への理解などより根元的な目的を持った教育へと移り変わってきている。中越では中越地震以降の復興の様子を「メモリアル回廊」というしかけを通して公開している。震災遺構やアーカイブ施設も運営の方法によりそのような理解を助ける教材となることが予想される。本集会では，アーカイブや防災教育に様々な立場から関わっている方々を招き，「遺す」ことをどう防災教育につなげていくかを考えることとした。また，実際にフォーラムのパネリストでもあった地元の方の案内で中越メモリアル回廊を巡るエクスカージョンも実施した。

(2)成果のまとめ

本集会のパネルディスカッションは，「何を遺そうとしているか」，「『遺すこと』の面白さと難しさ」，「後世に伝えねばならないこと」という3つのテーマに沿って各パネリストに各地での取り組みや面白さ，課題について何う形で進められた。また，途中コメンテーターの北原糸子先生から各パネリストに質問を投げかけ，参加者の理解を深める一助として頂いた。多くのパネリストが指摘した災害を伝える上で，単なる事象の積み重ねではない「ストーリー」が重要であること，また正式，公的に収集するだけでなく，「草アーカイブ」のようなものの必要性がこれからは高まり，またその原型は郷見庵など中越の取り組みにも見られることが指摘された。

また，午後に開かれた「中越メモリアル回廊」を巡るエクスカージョンにはフォーラムの登壇者や一般参加者など総勢21名が参加し，中越防災安全推進機構業務執行理事稲垣文彦さんと，パネリストでも登壇した松井智美さんの案内で，「やまこし復興交流館 おらたる」，「木籠メモリアルパーク」，「おぢや震災ミュージアム そなえ館」の3か所を訪ねた。参加者は棚田の美しい風景を楽しみつつ，中越地震の「遺し方」について銘々に考えを巡らせるひとときとなった。

(3)プログラム

9：30～9：40 開会挨拶 松田 曜子（実行委員・長岡技術科学大学准教授），

趣旨説明 上村 靖司（実行委員長・長岡技術科学大学教授）

9：40～12：30 パネルディスカッション「後世に遺す ～未来を守る防災教育～」

（内 11：00～11：10 休憩）

パネリスト：山内 宏泰（リアス・アーク美術館・学芸係長（津波／気仙沼））

北野 央（仙台市市民文化事業団・主事（地震・津波／仙台））

諏訪 清二（兵庫県立大学大学院・特任教授（地震／神戸））

米山 正幸（北淡震災記念公園・総支配人（地震／淡路島））

崎山 光一（稲むらの火の館・館長（津波／和歌山県））

樋口 勲（ラブリバーネット・代表（水害／大河津分水））

松井 智美（震災復興交流会郷見庵・運営管理責任者（地震／中越））

山崎麻里子（長岡震災アーカイブセンター・マネージャー（地震／中越））

コメンテーター：

北原 糸子（立命館大学歴史都市防災研究所 研究員）

コーディネーター：

上村 靖司・松田 曜子（長岡技術科学大学）

13：30～18：00 エクスカーション（中越メモリアル回廊見学）

・やまこし復興交流館 おらたる見学

・木籠メモリアルパーク見学

・おぢや震災ミュージアム そなえ館

(4)研究成果の公表

自然災害学会の学会誌「自然災害科学」において、特集（報告）と別冊として本研究成果を公表する予定である。